



279

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年9月14日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

被爆した哲学者・森滝市郎さんの反核への執念

14日(日)=1、3面



迫る



森滝市郎さんのノート。爆風で飛び散ったインクの跡が残る

哲学者・森滝市郎さん（1901〜1945年）は1945年8月、広島市内で被爆し、右目を失明するなど負傷をします。戦時中に教育者として戦争に加担した自身の過去を悔い、戦後は反核運動に心血を注ぎます。森滝さんは94年に亡くなりますが、今回の執筆者、高尾具成記者は生前の森滝さんに取材していました。

高尾記者は最近になって、原爆投下直後の状況を克明につづった手記と出合います。森滝さんが語った内容を教えた子たちが書いた口述筆記で、そのタイトルは「さいやくく記」。「さいやくく」とは恐らく「災厄」と思われます。そこでは一切の核を拒否する「核絶対否定」の考えが貫かれていました。「さいやくく記」の内容をひもときながら、戦後80年の戦争と平和を考えます。（8月17日に掲載予定でしたが紙面事情により休載しました。再掲となります。）

論点

イクメンの現在地

17日(水)=オピニオン面



育児に熱心な男性たちが「イクメン」として注目され、2010年に流行語大賞のトップテンに入ってから15年がたちました。この間、男性の育児休業取得率は右肩上がり、初めて4割を超えました。「育児は女性がするもの」というかつての意識は薄れつつありますが、現状をどう評価すればよいのでしょうか。研究者や子育て中の父親たちに聞きました。



米ニューヨークの国連本部



国連創設80周年

14日(日)＝総合面

先の大戦の犠牲者に思いをはせ、平和の大切さをかみしめた8月。戦中の体験を社会全体で共有すること、歴史に学び、平和な世界を築く基礎をなすものです。

国際連合（国連、本部・米ニューヨーク）が10月に創設80年を迎えます。国連は戦後、世界平和の維持に

尽力し、人道状況の改善に努めてきました。しかし近年はロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ地区攻撃といった戦禍に対し、「止める力」を発揮できていません。国連はどのような経緯で発足したのか。現在直面する課題は何か。国連の80年を考えました。

特集 ワイド

参政党の歴史認識を考える

16日(火)=夕刊2面

「南京大虐殺が本当にあったと信じている人がまだいるのか」。今話題の参政党はこんな主張を繰り返しています。

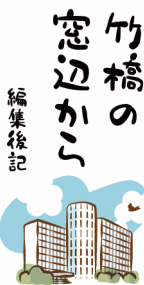
特集ワイドは3年前、1次資料や研究者への取材に基づき、「南京大虐殺はウソ」という否定論を記事で検証しました。「否定論を信じる国会議員がまだいるのか」。この夏、参政党が出した戦後80年談話や所属議員らの発言から、その歴史認識の意図するところを再び専門家とともに考えました。



毎日新聞



（木村健二）



編集後記

2024年の元日の夕方に発生した能登半島地震。「被災地のために何かできること」と思ってきた方に絶対のイベントがあります。10月4日（土）、オンラインイベント「毎小カントリーキッチン」を開催します。当日参加者には石川県能登町産ブルーベリーをどっさり500gプレゼント。白玉団子を作りながら、被災地の現状を学びます。お申し込みはQRコードから。